



○ かな？

ことばは時代とともに変化していきます。アクセントも変わっていきます。「今時の若いもんは・・・」というふうになんか若者の言動を批判することはずっと大昔から今も続いて繰り返されるようです。そういうことも分かってはいますが、私が気になっていることについて紹介します。

△オリンピックに出場する選手がインタビューを受けて、次のようにコメントしたとします。

「優勝できればいいかな？とは思いますが・・・」

勝ち負けにかかわるスポーツ者なら、「優勝したいと思います！」と言ってほしいな。

△テレビのニュース番組などでは、次のような表現が多いように思います。

「～ いよいよ立春。町中では何が？」 「～ 犯人が逃走中。目撃者は！」

アナウンサーが話しことばで伝えているのですが、途中でやめ、「？」や「！」で終わるのです。

週刊誌の新聞広告や電車の宙吊り広告ではないんだから、文末まで表現してほしいな。

△また、“アクセント”のことは文章では伝えにくいのですが、紹介してみます。

「ドラマ」は以前「↑・↓」と発音していなかったでしょうか？いわゆるかつての“コギャルことば”(?)では「・・・↑」と発音していたように思います。しかし最近はNHKのアナウンサーも「・・・↑」と発音しているときがあります。今話題になっている「LINE」は「↑・↓」と発音してはいけならしいです。「・・・↑」と発音することで、情報通信システムのことを指すのだそうです。「・・・↑」とはいまだに言いにくい私です。

しかし私自身も、アッと気づくとそんなことば遣いをし、そんなアクセントを使っています。違和感を指摘しながら自分のことばづかいも変化していることにびっくりします。

私の住所地である柳井市は市を取ったとき、やない「・・・↑」と住民は発音します。このアクセントは柳井方言の一つといえるかもしれません。しかし、市外の人ほとんど「↑・↓」と発音します。住民である私には違和感が残ります。そんな私ですが、福井県の県を取ったときふくい「↑・↓」と発音しています。不思議な現象です。こだわることはないのかな？ そうはいつでも、

美しいかなと思われるかもしれないような日本語なんかは残しておきたいとは思ったりも。

○ 金田一さん

日本語の美しさとおもしろさを思っているとき、ある研修会で金田一秀穂氏の講演を拝聴しました。氏はテレビにも出演されているようで、ご存知の方も多いと思います。「世界一受けたい授業～おもしろい日本語～」という演題で、楽しく奥の深い話を聞くことができました。盛りだくさんの内容から一つ紹介してみます。

“未来”は前か後ろか？と問われたとき、“前”だと思うのが多数意見でしょう。でも「ちょっと前のことを思い出せない。」というときの“前”は過去のことを意味しています。…？

氏の話の中で「心地よいことばづかい」「ことばを大切につかう」という表現がありました。心に留めておきたいと思います。外国語にはあまりない日本語の複雑さ・おもしろさ・美しさなどを学生たちに伝えたいなとよく思います。国語が好きになり、日本をより愛せます。学力も上がると思います。でもはまってしまうと講義内容が前に進まなくなるでしょう。そこは難しい。

※国語の講師の先生と話をしていたら、上記に関する内容の話題が出てきたので、2年前に書いたものをほぼそのまま使いました。読んだことがある人、ご了承ください。

自校自賛 …………… お休み



玄關のメダカ